

# 2013年3月期第2四半期決算説明会

## 2012.11.21

NIPPON YAKIN

**日本冶金工業株式会社**

---

## 本日のアジェンダ

### 1. 2013年3月期第2四半期決算サマリー

取締役常務執行役員経理部長 久保田 尚志

### 2. 足元の状況と総コスト削減計画について

代表取締役社長 杉森 一太

＜参考＞主要データ(連結ベース)

## 2013年3月期第2四半期決算のポイント

- ① 歴史的な円高水準が続く中で欧州の景気悪化、中国の景気減速が鮮明となり、期を通じて需要は低調に推移
- ② ステンレス一般材の販売数量は国内・輸出ともに減少
- ③ 高機能材部門の販売数量も中国向けの落ち込みが大きく影響し減少
- ④ 厳しい事業環境のもと、コスト構造の更なる改革による収益改善を実現すべく「総コスト削減計画」を策定

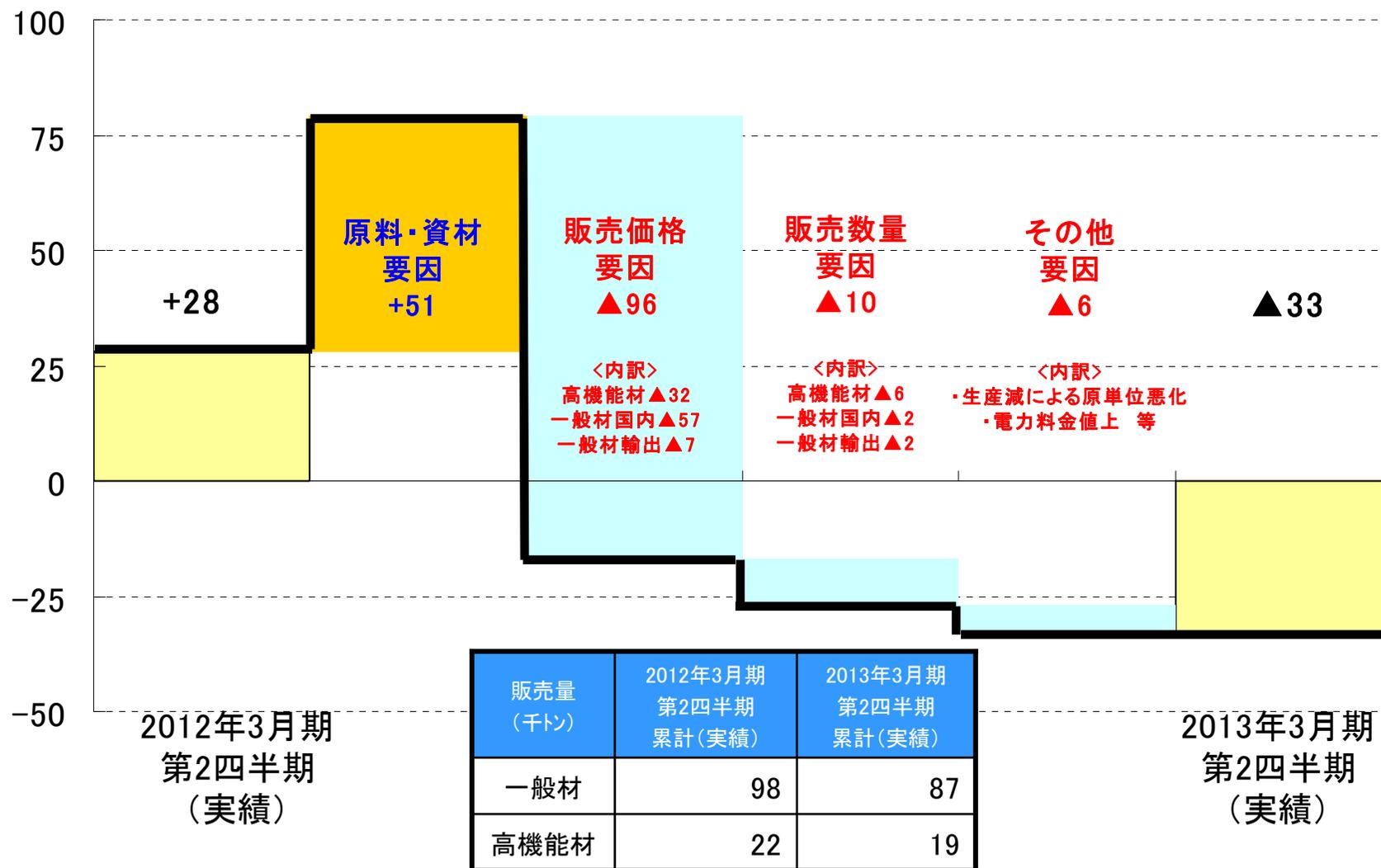
## 損益計算書 連結 概要

	2012年3月期 第2四半期 累計実績 (億円)	2013年3月期 第2四半期 累計実績 (億円)	前年比 (億円)	前年比 (%)
売上高	692	528	▲ 164	▲ 23.7
営業利益	28	▲ 33	▲ 61	-
経常利益	21	▲ 40	▲ 61	-
当期純利益	17	▲ 48	▲ 65	-
ROA(%)	3.9	▲ 4.5		
高機能材部門 売上高比率(%)	38.0	37.8		

(注)ROAは(営業利益+受取利息・受取配当金)／期初・期末平均総資産×2

(ご参考)ニッケルLME期中平均価格:2012年3月期上期10.51US\$/Lb、2013年3月期上期7.60US\$/Lb。

# 営業利益変動の要因分析(前年同期比較:億円)



## 貸借対照表 連結 概要

	2012年3月末 (億円)	2012年9月末 (億円)	前期比増減 (億円)	2012年3月末 構成比 (%)	2012年9月末 構成比 (%)
現金・預金	151	113	▲ 39	10.1	8.1
売掛債権	238	179	▲ 59	15.9	12.8
たな卸資産	291	290	▲ 0	19.4	20.8
その他流動資産	4	4	▲ 1	0.3	0.3
固定資産	814	809	▲ 5	54.3	58.0
<b>【資産合計】</b>	<b>1,499</b>	<b>1,395</b>	<b>▲ 104</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>
借入金・社債	637	616	▲ 21	42.5	44.2
その他負債	483	458	▲ 25	32.2	32.8
<b>【負債計】</b>	<b>1,120</b>	<b>1,074</b>	<b>▲ 46</b>	<b>74.8</b>	<b>77.0</b>
<b>【純資産計】</b>	<b>378</b>	<b>321</b>	<b>▲ 57</b>	<b>25.2</b>	<b>23.0</b>

# キャッシュフロー計算書 連結 概要

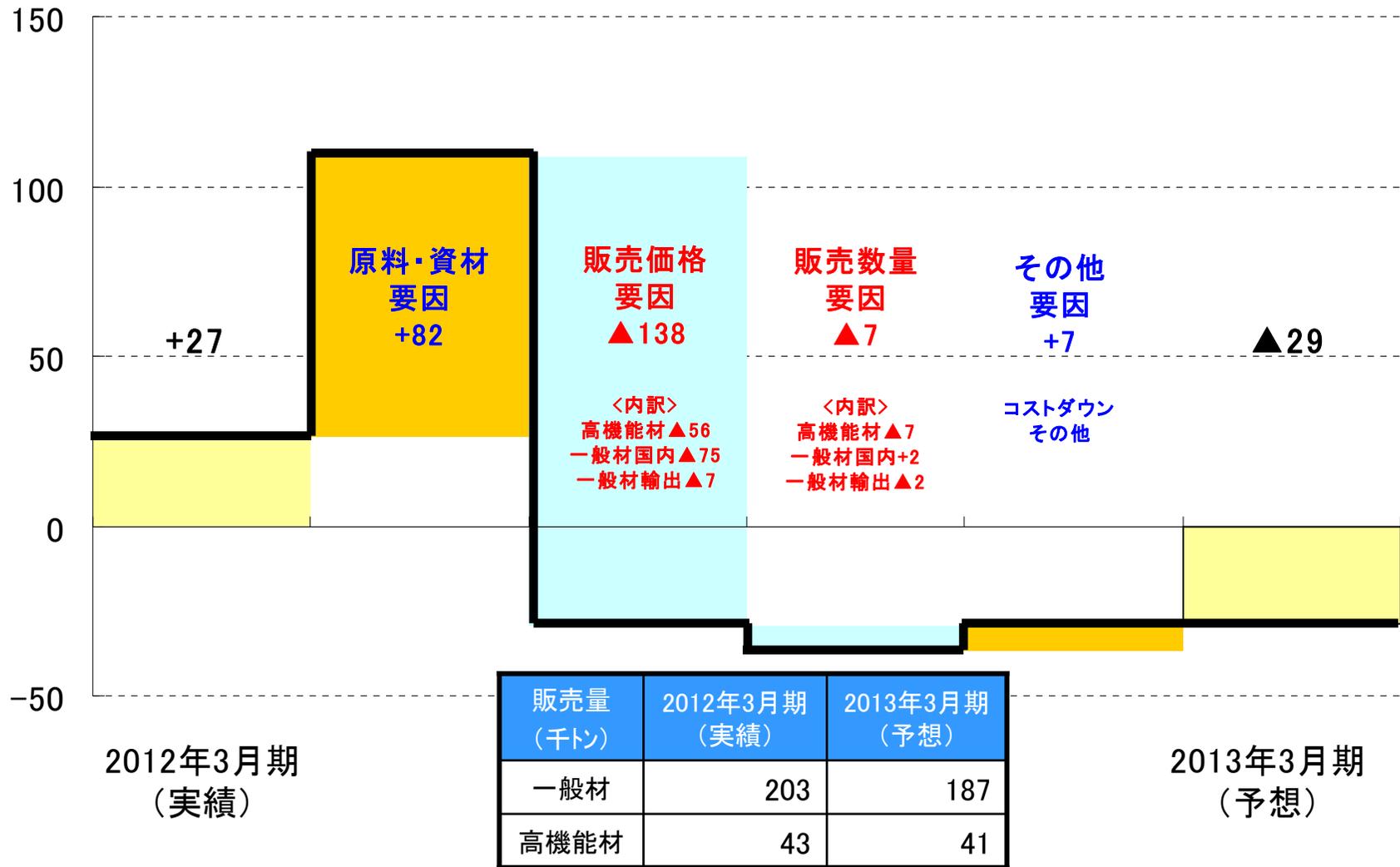
	2012年3月期 第2四半期 累計実績(億円)	2013年3月期 第2四半期 累計実績(億円)	前年比 (億円)
営業活動によるキャッシュフロー	▲ 7	8	15
税金等調整前中間(当期)純利益	18	▲ 48	▲ 65
減価償却費	25	22	▲ 2
売上債権の増加額(△)又は減少額	6	60	53
たな卸資産の増加額(△)又は減少額	▲ 34	0	35
仕入債務の増加額又は減少額(△)	▲ 25	▲ 25	▲ 0
法人税等の支払額	1	▲ 1	▲ 2
その他	2	▲ 2	▲ 4
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 12	▲ 28	▲ 16
有形・無形固定資産の取得による支出	▲ 14	▲ 28	▲ 14
その他	2	0	▲ 2
フリー・キャッシュフロー	▲ 20	▲ 21	▲ 1
財務活動によるキャッシュフロー	40	▲ 18	▲ 58
長短借入金の純減少額(△)	2	▲ 21	▲ 23
株式発行による調達	41	-	▲ 41
その他	▲ 3	3	6
現金及び現金同等物の増加額又は減少額(△)	20	▲ 39	▲ 59

## 2013年3月期連結業績予想

	2012年3月期	2013年3月期		
	通期実績 (億円)	今回予想 (億円)	前年比 (億円)	前年比 (%)
売上高	1,349	1,100	▲ 249	▲ 18.4
営業利益	27	▲ 29	▲ 56	—
経常利益	14	▲ 40	▲ 54	—
当期純利益	8	▲ 48	▲ 56	—

(前提)2013年3月期ニッケルLME期中平均価格: 7.78US\$/Lb、為替レート 80.0円。

# 営業利益変動の要因分析(前期比較:億円)



## 本日のアジェンダ

### 1. 2013年3月期第2四半期決算サマリー

取締役常務執行役員経理部長 久保田 尚志

### 2. 足元の状況と総コスト削減計画について

代表取締役社長 杉森 一太

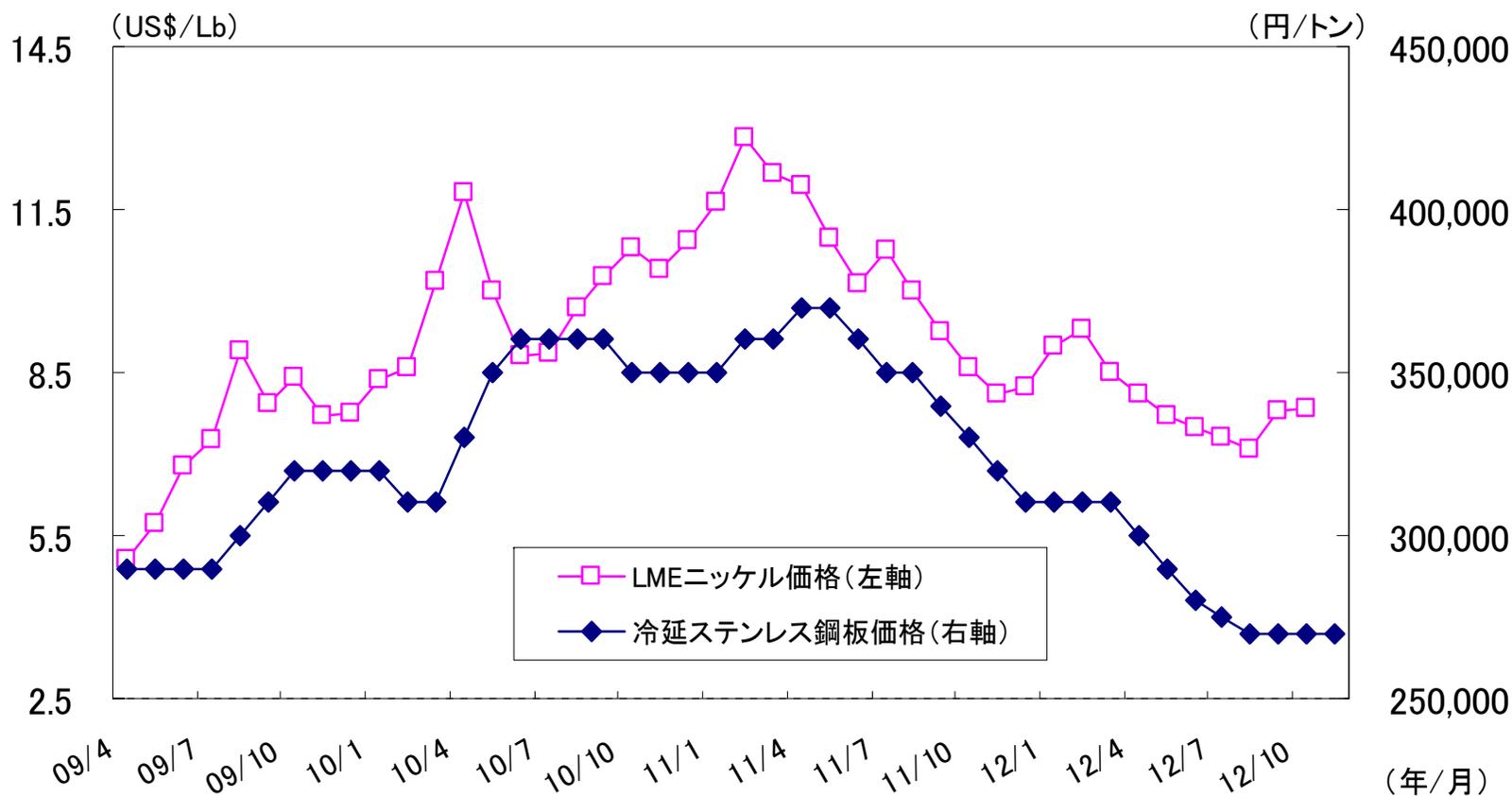
＜参考＞主要データ(連結ベース)

# ステンレス一般材の状況

	(1)国内マーケット	(2)海外マーケット
今年度上期	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 3月後半からのニッケル価格軟化を受け、期を通じて需要は低調に推移</li> <li>✓ 需要低迷と輸入材の影響による利鞘の縮小傾向が持続</li> <li>✓ 震災復興需要は期待を下回る</li> <li>✓ 夏場以降は、様々な分野で小口ながらも引合いや成約に結びつく案件も増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 国内同様に3月後半からのニッケル価格軟化を受け、期を通じて需要は低調に推移</li> <li>✓ ドル建て単価下落と円高水準の持続により積極的な受注は控えた</li> </ul>
今年度下期の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 上期からの著しい好転が期待出来そうな業種は見当たらず</li> <li>✓ ニッケル価格も不安定で、全般的には厳しい状況が続くことを想定</li> <li>✓ 引合いや成約に結びつく案件の改善傾向は穏やかながら続く見込み</li> <li>✓ 新規開拓にも鋭意取り組みを進める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 不安定なニッケル価格や歴史的な円高水準が続く見込み</li> <li>✓ 高付加価値材の縞鋼板など利益確保できる品目を手掛りとしながら数量確保に努める</li> </ul>

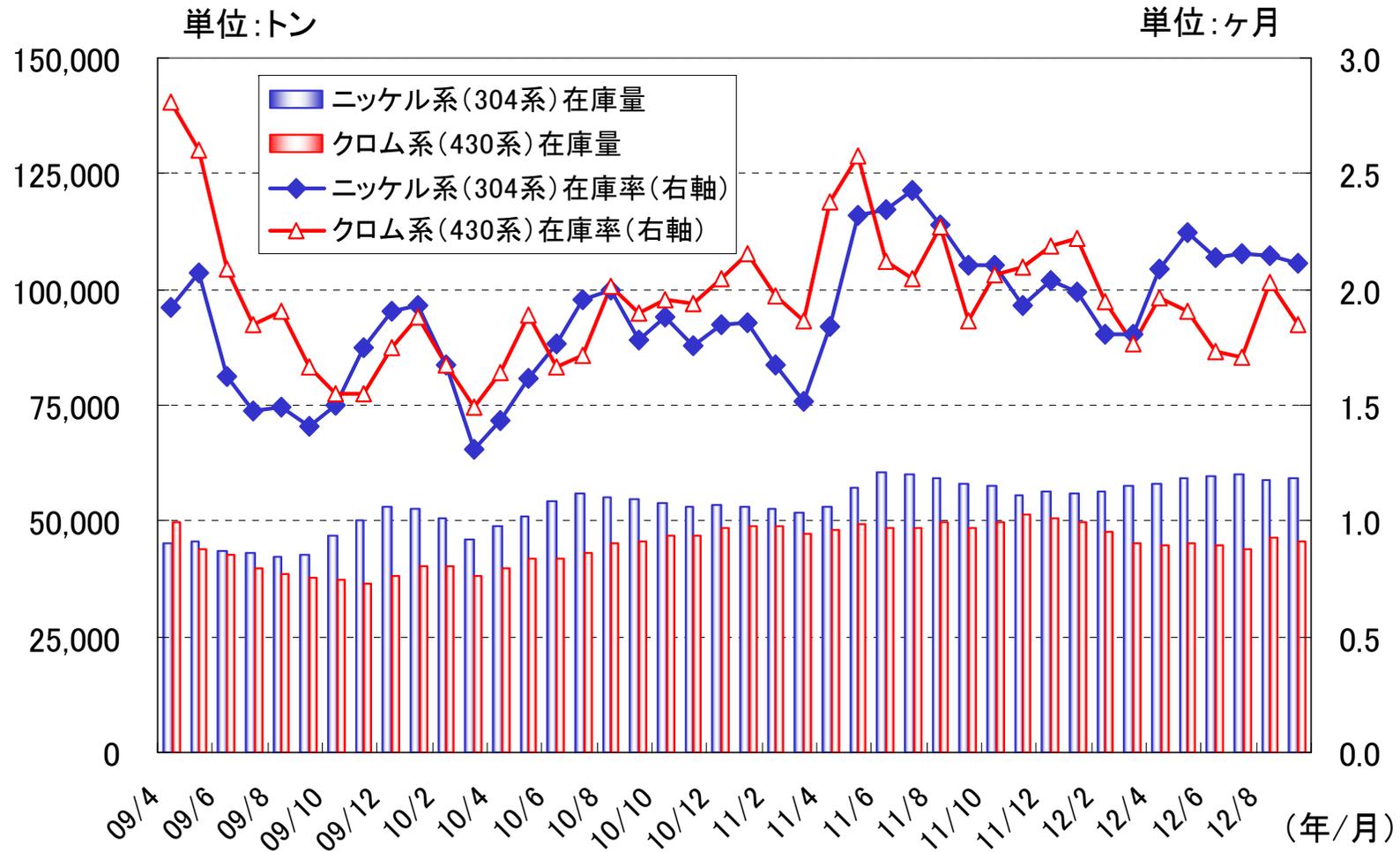
## ニッケル・ステンレス価格の推移(月次)

▶ 2012年3月以降下落続いていたニッケル価格は、8月をボトムに反転したものの足元は\$7/lb台で推移



(注1) 冷延ステンレス鋼板: 東京SUS304種18-8、2.0ミリ。  
 (注2) 2012年11月の冷延ステンレス鋼板価格は直近。  
 (出所) 鉄鋼新聞。

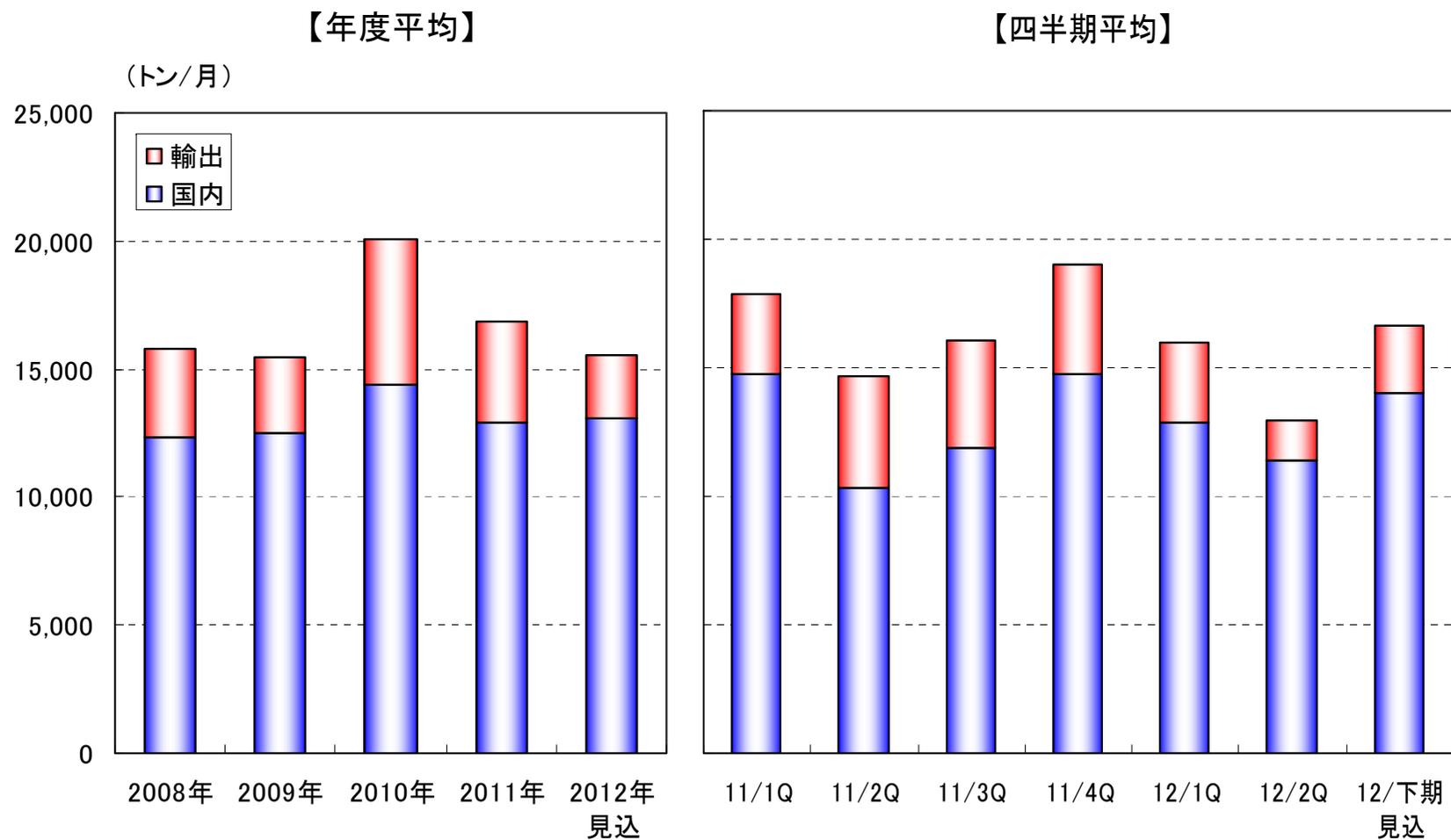
# 汎用ステンレス(ニッケル系・クロム系)在庫の推移(月次)



(出所)全国ステンレスコイルセンター工業会。

# 販売量実績及び見込み《ステンレス一般材》

➤ 国内、輸出ともニッケル価格下落と円高継続により低調

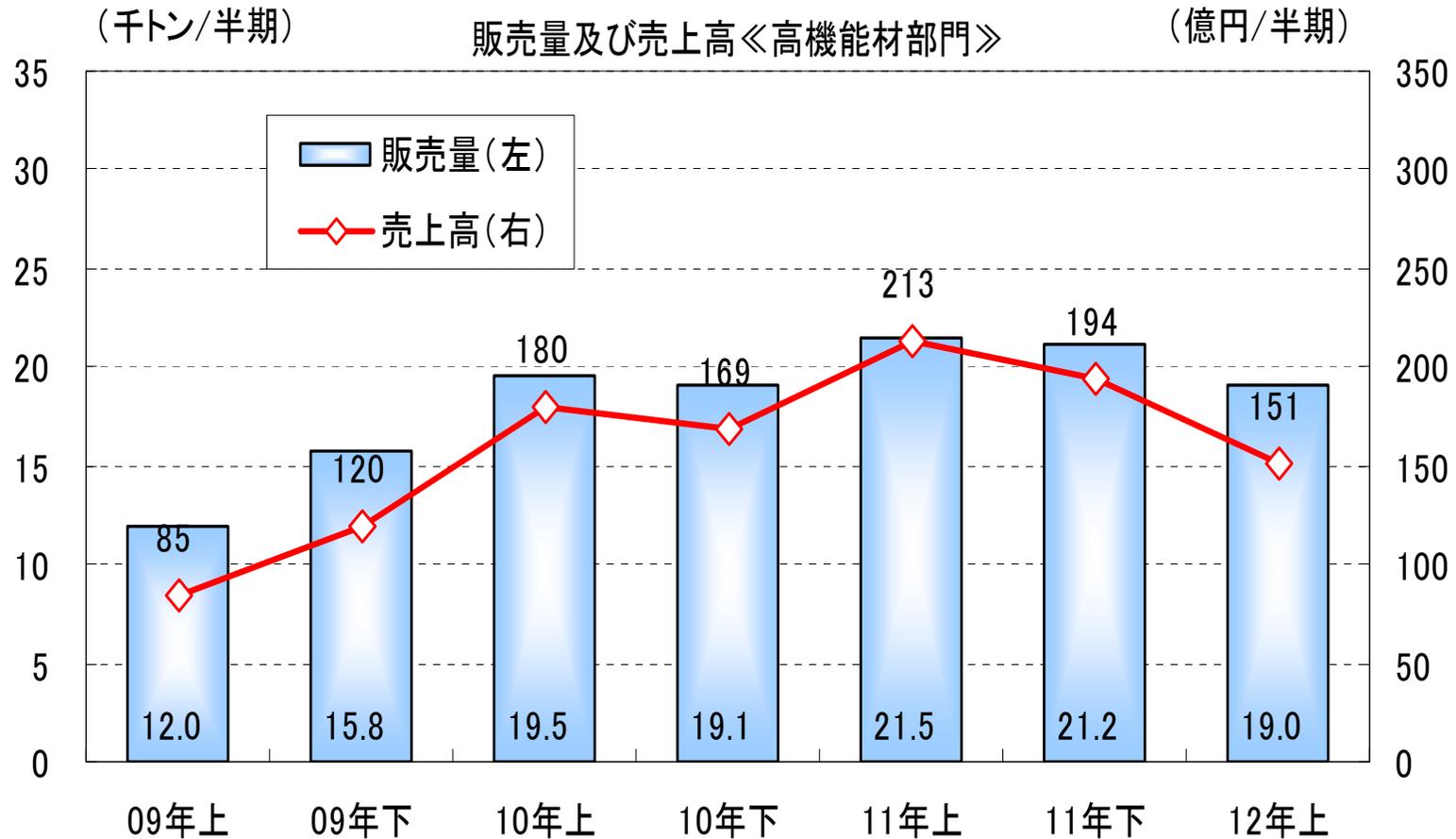


# 高機能材部門の状況

	(1)国内マーケット	(2)海外マーケット
今年度上期	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 発電所向けボイラー関連、貯水池関連、航空機関連、国内外向け原子力関連は堅調でほぼ計画通りの受注、販売を達成</li> <li>✓ ニッケルなどの原料価格は全体的に低い水準で推移、円高継続の状況から間接輸出案件は低調に推移</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 欧州は金融不安が依然解決せず低調</li> <li>✓ 中国は金融引締めに加え日中関係悪化により一時停滞、昨年上期に大量販売した太陽光発電向け需要は過剰投資による製品価格下落により減少</li> <li>✓ 北米は現地法人設置の効果もあり堅調</li> <li>✓ 東アジア・アセアン地域は引合物件の増加が顕著であり、韓国向けを中心に堅調</li> </ul>
今年度下期の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 航空機関連、貯水池関連は堅調を見込む</li> <li>✓ 原子力関連は下期も堅調と予想するが、来期以降は不透明</li> <li>✓ 電力需要をまかなう為の火力発電所、再生可能エネルギー分野での高機能材需要取込みを新機軸として受注販売を展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 欧州の景気低迷は継続すると予想</li> <li>✓ 中国ではシーズヒーター等のリピート需要と、実行段階にある化学プラント物件についての受注活動を推進</li> <li>✓ 北米では耐熱鋼、航空機関連などを中心に販売増を図る</li> <li>✓ 東アジア・アセアン地域で需要拡大しているオイル&amp;ガス、化学プラント等の案件について各国拠点と連携し確実にフォロー、需要地に近いという立地を生かし短納期を武器に受注を図る</li> </ul>

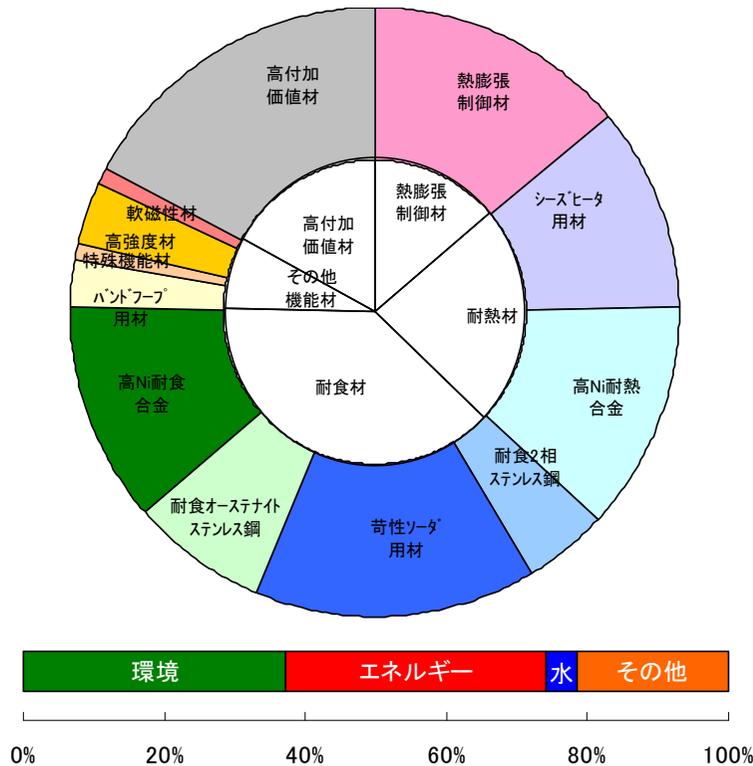
## 販売量及び売上高 《高機能材部門合計》

▶ 欧州・中国等の景気減速や円高継続の影響から売上高、数量ともに減少

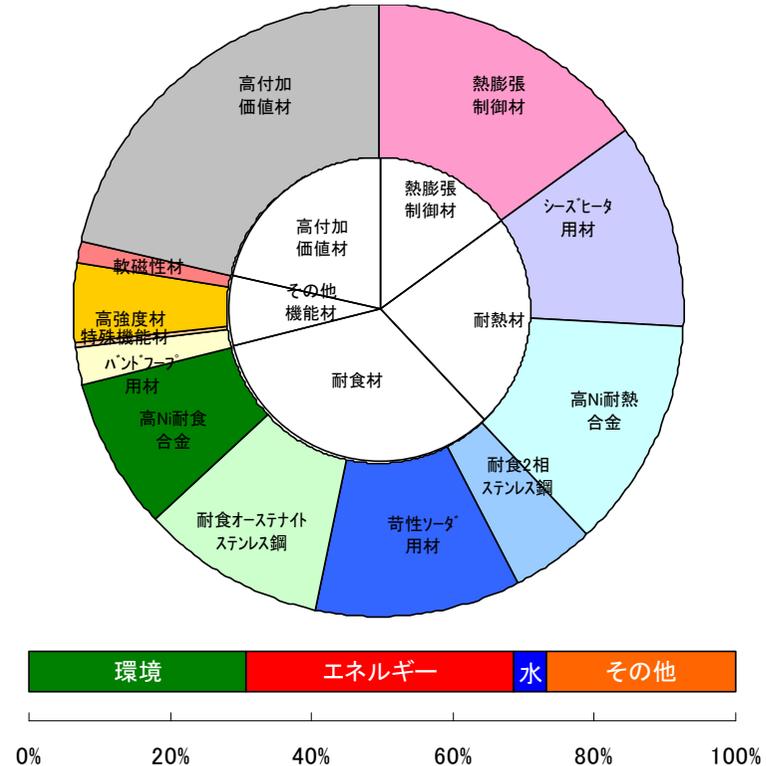


# 高機能材部門の分類・用途別分類の構成比(売上高)

<2011年度上期>



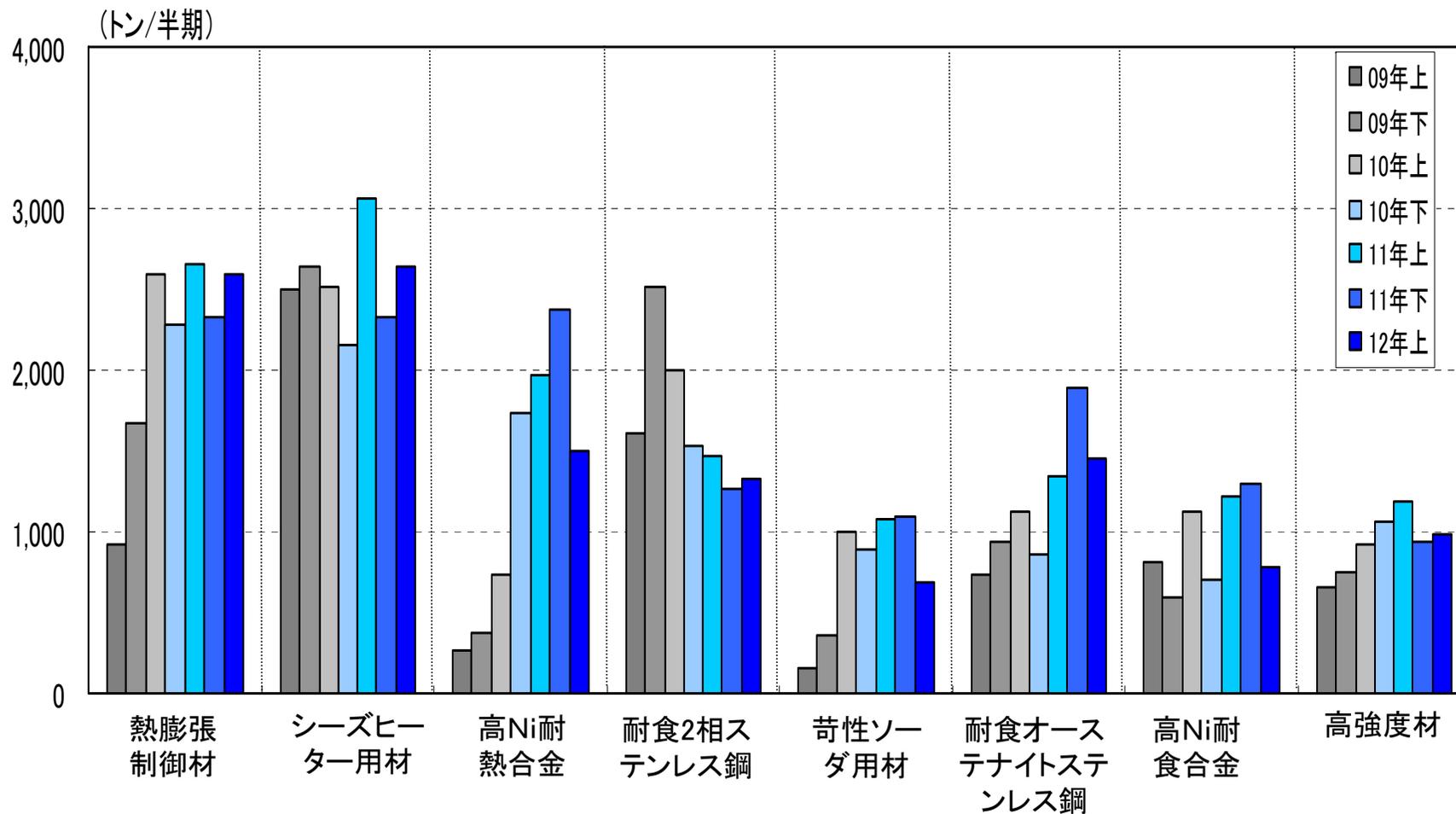
<2012年度上期>



(注) 下部の帯グラフは高機能材部門全体における需要分野別の割合を示す。

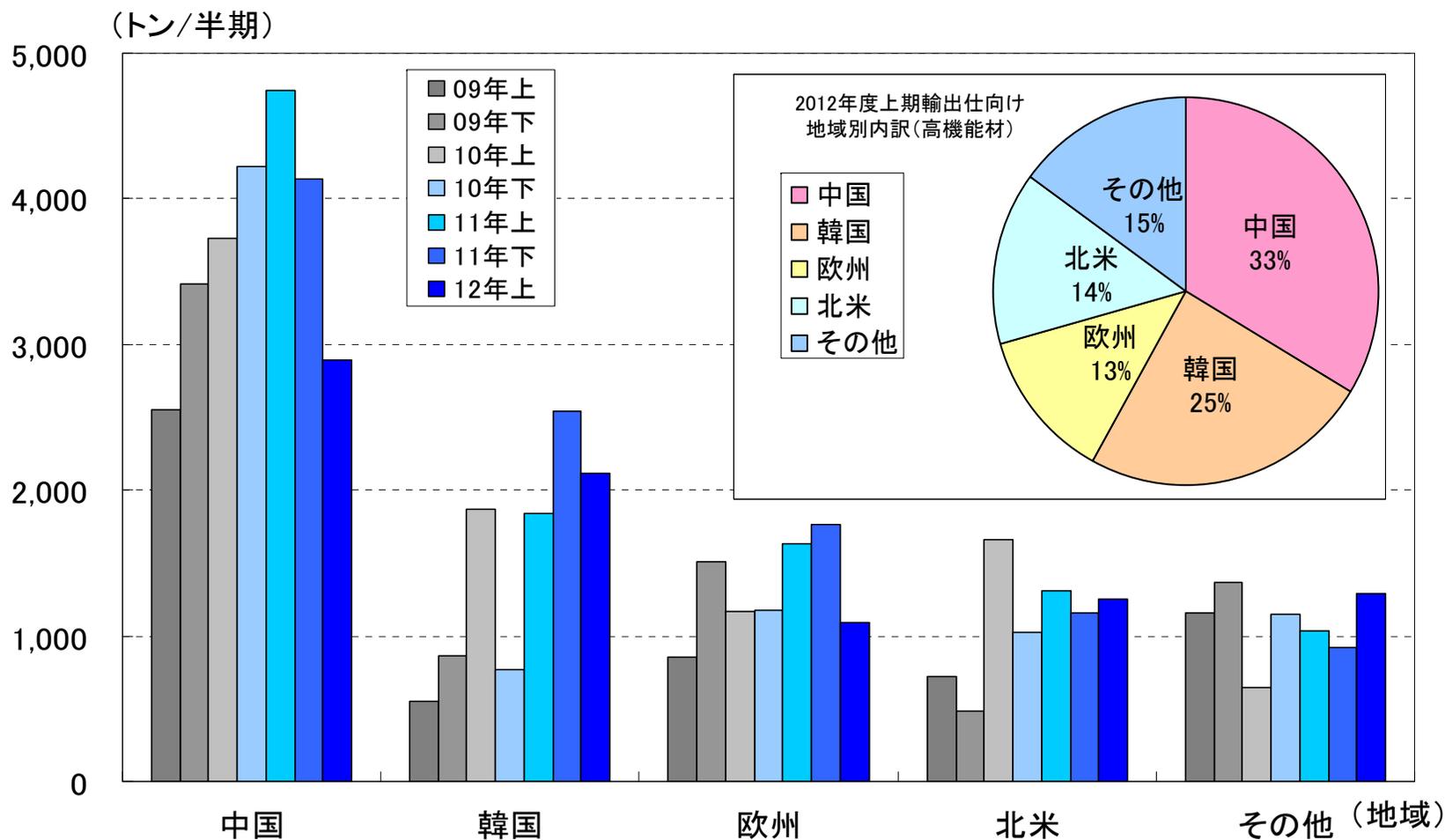
# 高機能材の分類・用途別分類の推移(販売量)

➤ 熱膨張制御材、シーズヒーター用材等は堅調な販売を継続



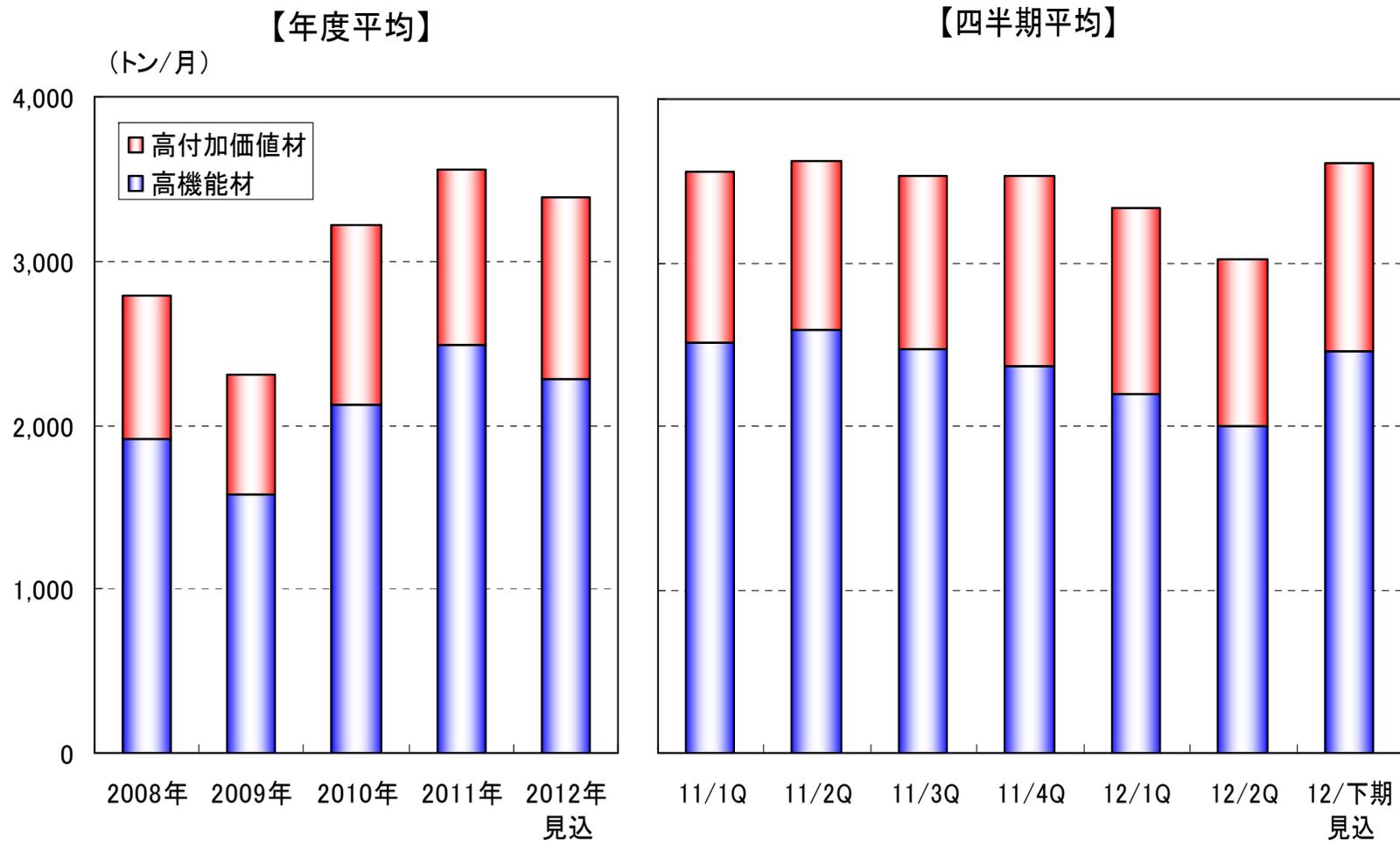
# 高機能材の輸出仕向け地別推移(販売量)

➤ 中国向けは景気減速により減少、韓国・北米は底堅く推移

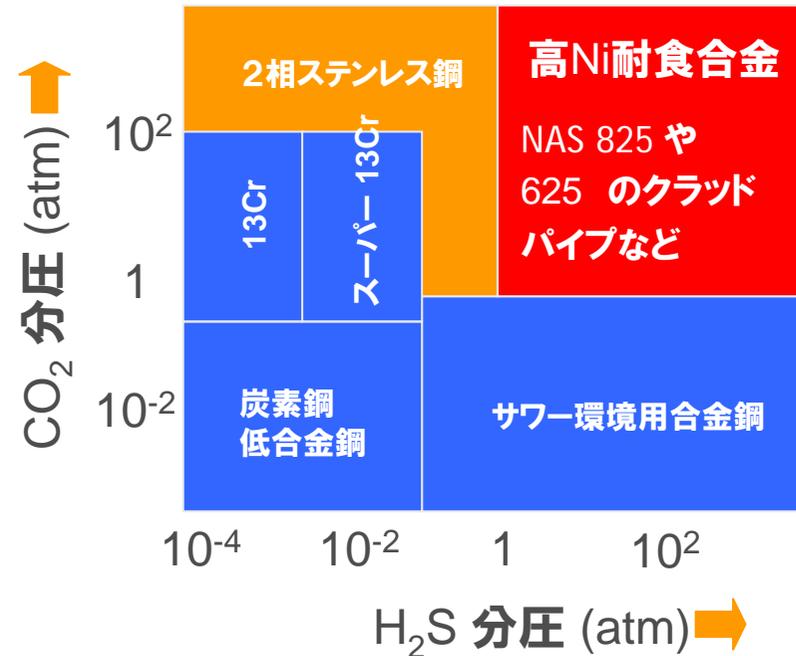
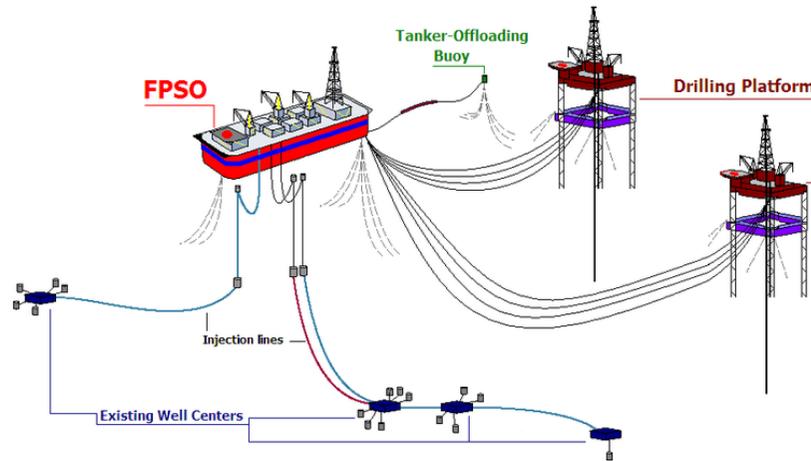


# 販売量実績及び見込み《高機能材部門合計》

➤ エネルギー需要を背景に引合・受注は回復傾向にあり、下期は増加を見込む



# 高機能材案件紹介 FPSO(浮体式海洋石油・ガス生産貯蔵積出設備)



- ・FPSO(Floating Production, Storage and Offloading system: 浮体式海洋石油・ガス生産貯蔵積出設備)は、洋上で石油・ガスを生産し、設備内のタンクで貯蔵し、輸送タンカーへ積出しを行なう設備です。
- ・旧来型の固定式プラットフォームでは設置が難しい水深の深い、または遠隔地の海洋に、短い工期で設置可能です。
- ・当社の高Ni耐食合金N825やN625は塩化物に対する優れた耐食性が評価され、本設備に採用されています。

区分	当社製品名	化学成分等		
		ニッケル (%)	クロム (%)	モリブデン (%)
高Ni耐食合金	NAS 825	38.0~46.0	19.5~23.5	2.5~3.5
	NAS 625	≥58.0	20.0~23.0	8.0~10.0
一般材 (汎用ステンレス)	NAS 304 (SUS 304)	8.0	18.0	—

# 海外需要の積極的取組み

## ▶ 中国 上海で顧客向けセミナー開催

1. 2012年7月20日 上海現地法人 日邦冶金商貿(上海)有限公司の開所式と合わせ開催
2. 内容: 当社概要、高機能材紹介、技術開発の概要などを幅広く説明
3. 参加者: 中国の企業、大学・研究機関など約200名
4. 今後も拡大が期待される中国市場において強固なポジション構築を目指す



## 「総コスト削減計画」策定

➤ ステンレス特殊鋼業界の厳しい事業環境を踏まえ収益構造の改革を図る

1. 2012年度は、事業環境は厳しく経常損失40億円、純損失48億円を見込む
2. 事業環境の早期回復は困難と認識し「総コスト削減計画」を策定

骨子：直面する厳しい市場環境下、販売製品構成を見直し  
固定費を含めた総コストを削減（効果53億円/年換算）  
することで2013年度の経常黒字化実現

## 「総コスト削減計画」概要

施策及び効果(年換算)	
(1) 販売製品構成の見直し	
① 汎用ステンレス分野において採算性重視の方針を明確化	
② 高機能材分野に経営資源をより集中させ、収益性改善、安定収益の実現	
(2) 生産総量に見合った総固定費削減	
① 設備集約等による減価償却費等の削減	7億円
② 総人件費の削減	10億円
(3) 高機能材コストダウン策等	
① 高機能材の汎用ルート化の拡大	18億円
② 自社製錬フェロニッケル効果拡大	13億円
③ その他	5億円
<b>効果金額合計</b>	<b>53億円</b>

## 配当について

### ▶ 2013年3月期の配当予想額

2013年3月期の配当は誠に遺憾ながら見送ることとさせていただきます。

## 本日のアジェンダ

### 1. 2013年3月期第2四半期決算サマリー

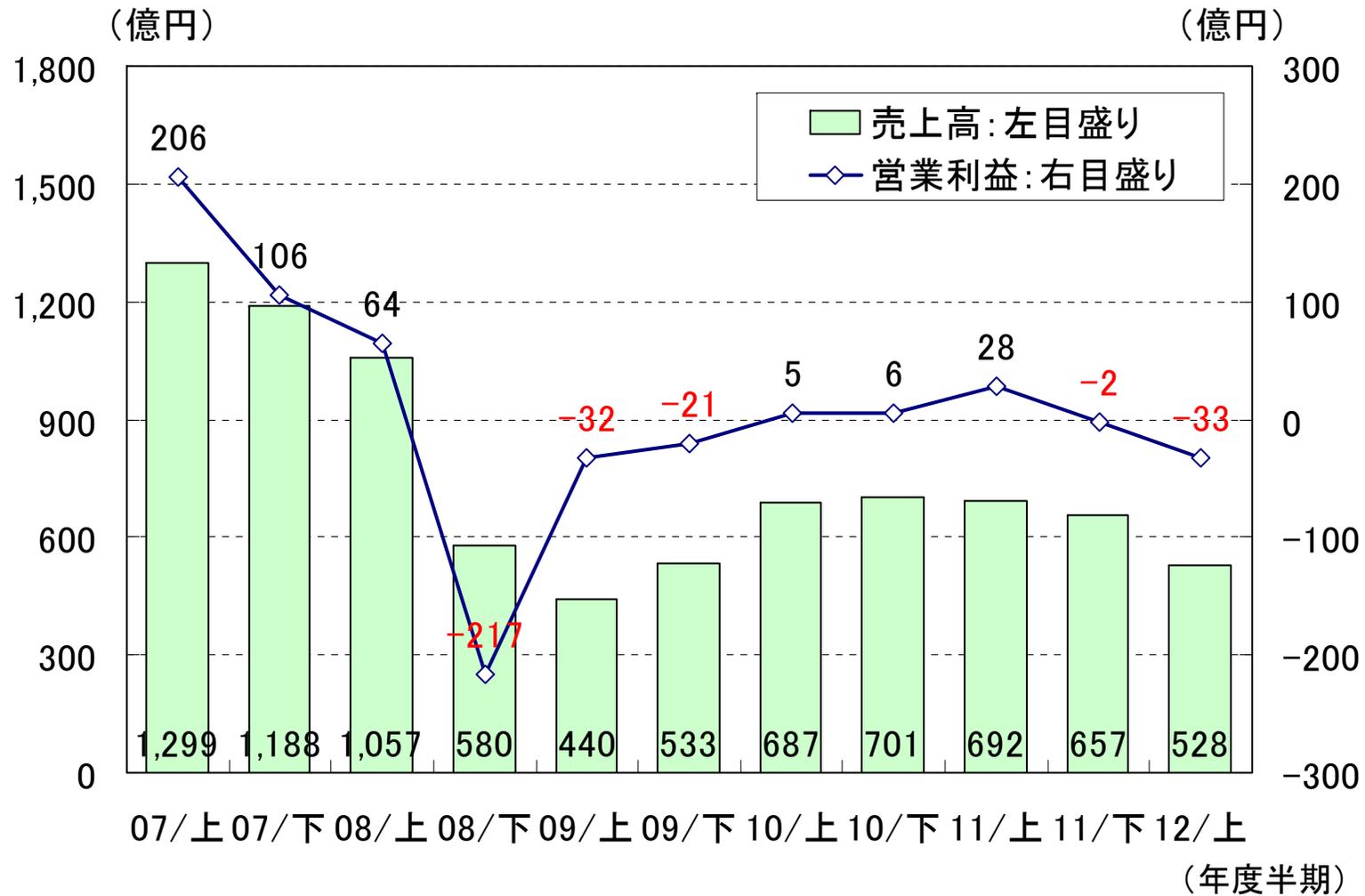
取締役常務執行役員経理部長 久保田 尚志

### 2. 足元の状況と総コスト削減計画について

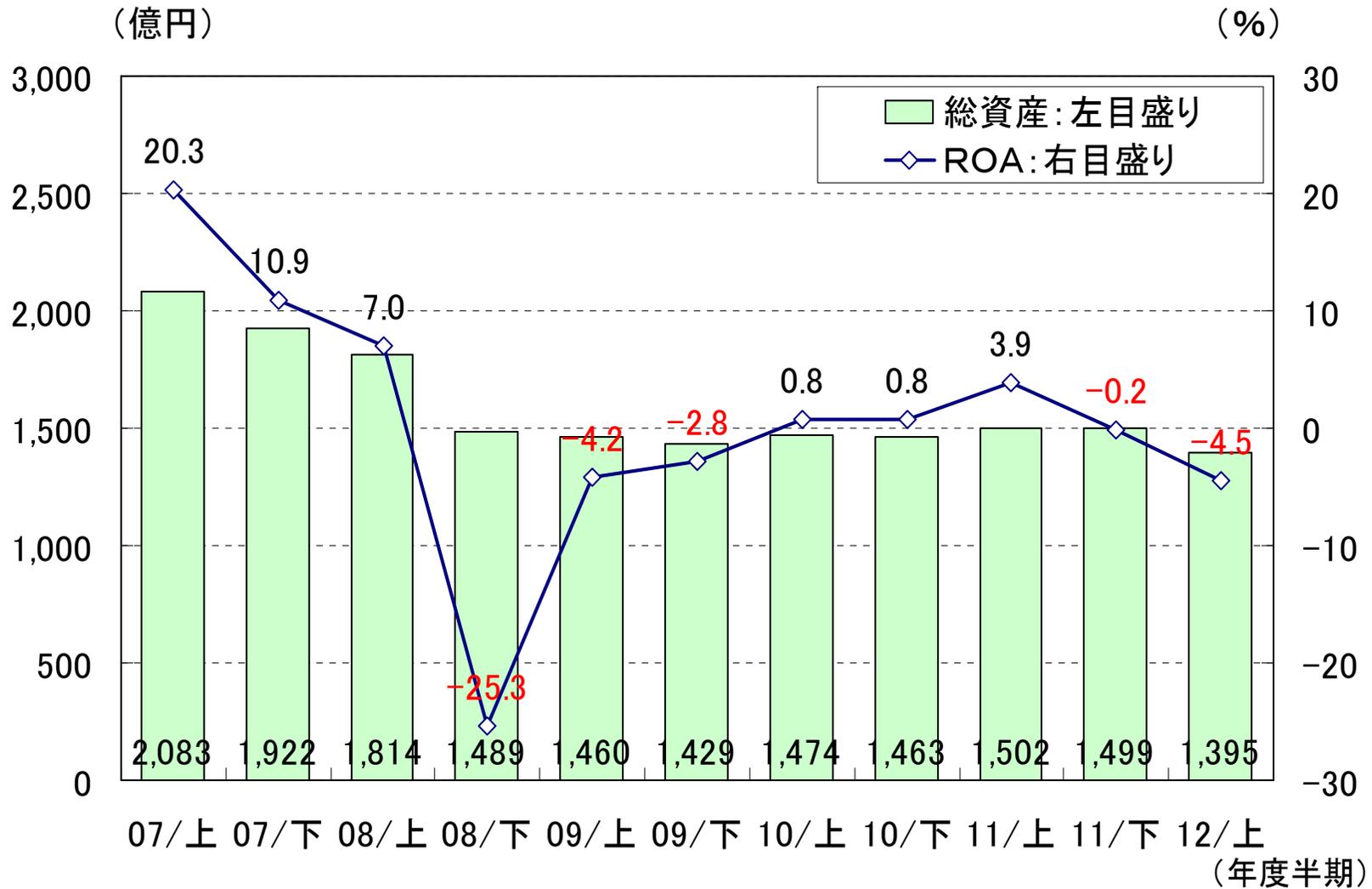
代表取締役社長 杉森 一太

＜参考＞主要データ(連結ベース)

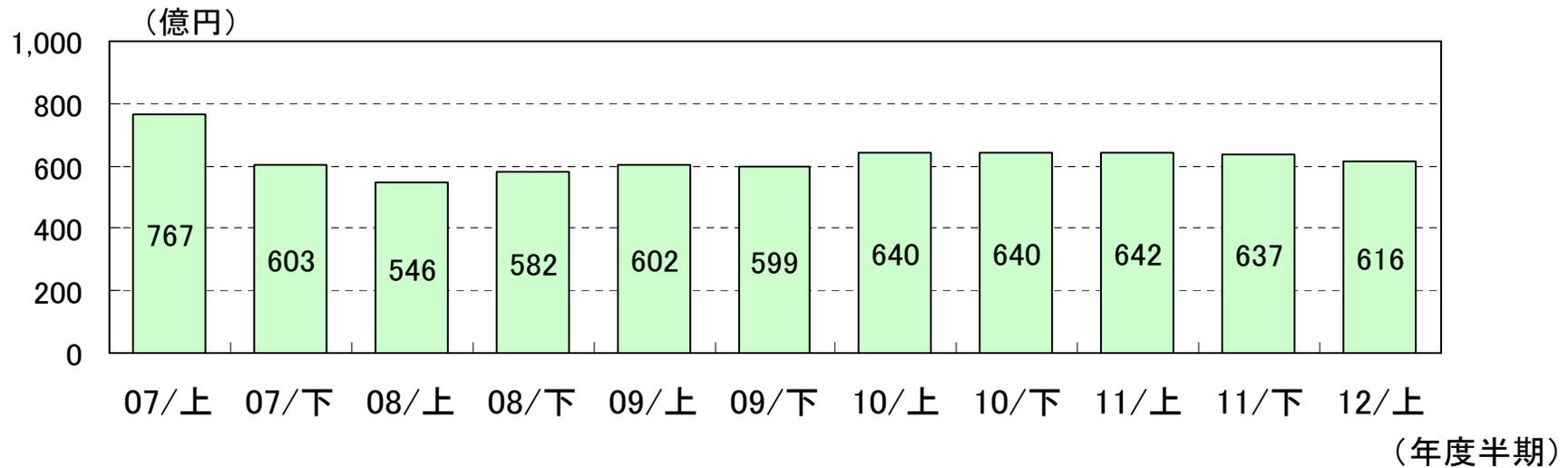
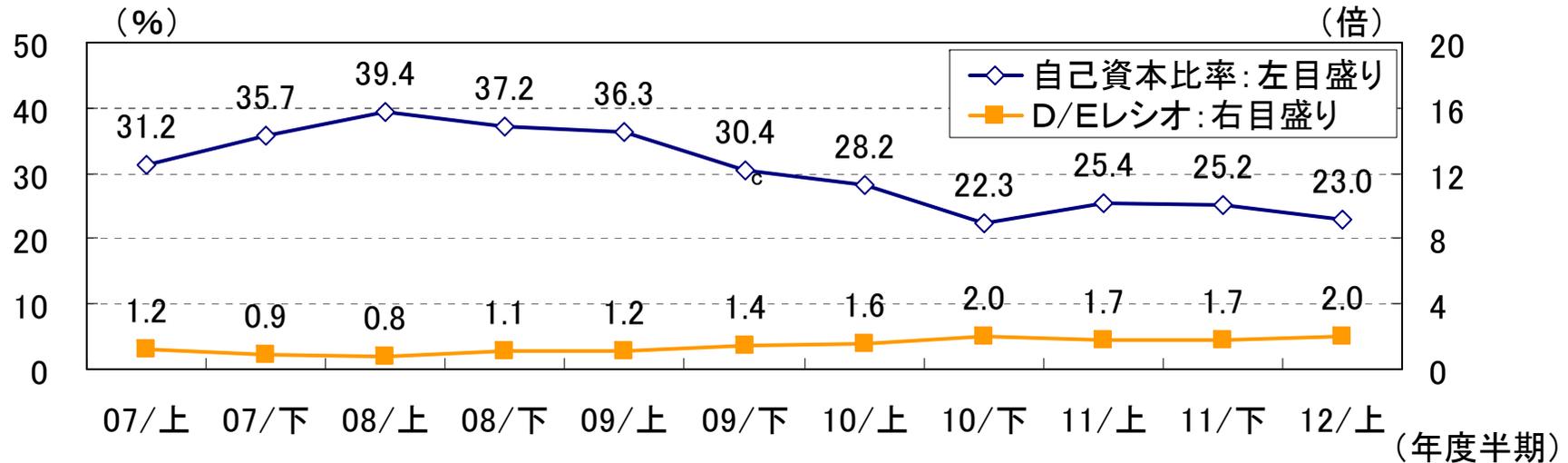
# 売上高・営業利益



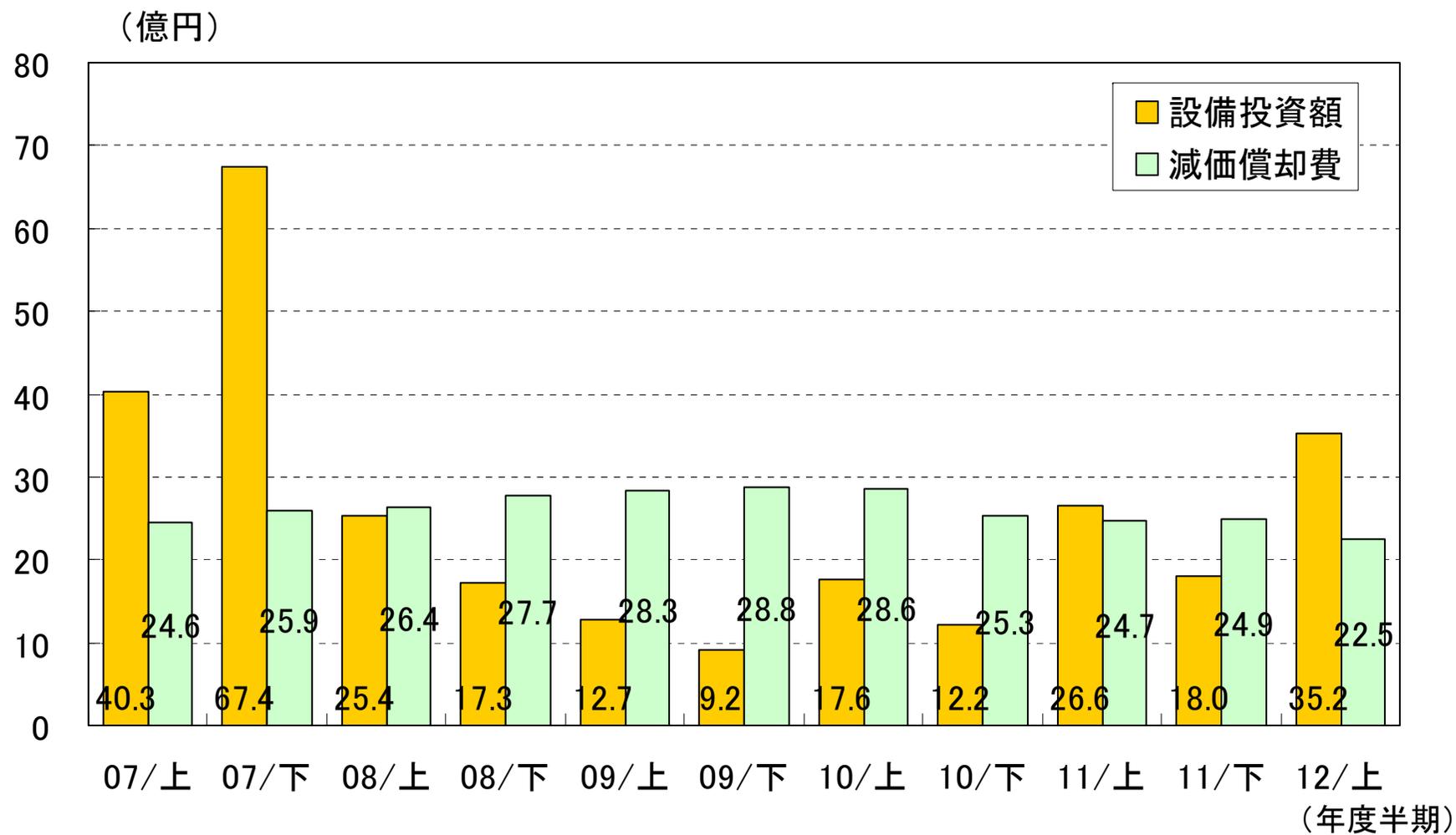
# 総資産額・ROA



# 有利子負債残高と自己資本比率、D/Eレシオ



## 設備投資(連結ベース)



歴史あるステンレスメーカーから新しいステンレス特殊鋼メーカーへ

# 日本冶金工業

本資料のいかなる内容も、弊社株式の投資勧誘を目的としたものではありません。

また、本資料に掲載された計画や見通し、予測等は、現時点で入手可能な情報に基づいた弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。

万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切の責任を負いかねますので、ご承知下さい。

【本件に関するお問い合わせ】

日本冶金工業株式会社 IR事務局

Tel. 03-3273-3613 /

E-MAIL. [irjimu@nyk.co.jp](mailto:irjimu@nyk.co.jp)